

「アンケート概要」 (令和4年9月20日実施)

外国人の新型コロナウイルス感染症患者の受入れに係る課題等を把握し、今後の参考とするため、大阪府外国人患者受入れ拠点医療機関及び地域拠点医療機関の計31病院を対象にアンケート調査を実施し、全病院から回答があった。

「アンケート結果」

【問1】外国人コロナ患者の受入れ実績はありましたか？

⇒全31病院のうち、25病院において、外国人コロナ患者の受入れ実績があった。(昨年度：全30病院のうち、21病院。)

【問2】受入れ実績があった病院において、トラブルや課題等がありましたか？

⇒外国人コロナ患者を受け入れた25病院のうち、9病院から次のような回答があった。(昨年度：21病院のうち、17病院。)

分類	具体的内容
コミュニケーションに関すること	<ul style="list-style-type: none"> ○簡単な日本語や英語は理解してもらえるが、医療の専門用語は理解してもえなかった。 ○翻訳機を使用して対応したが、時間を要した。 ○微妙なニュアンスが伝わらない場合があった。 ○家族への病状説明や、インフォームドコンセントで難しい場面があった。 ○翻訳機等では相手方(患者、スタッフともに)が思っていることを十分に表現できないため、心のケアなどが不十分だった。 ○通訳や翻訳機等を活用しているが、最低限の意思疎通に留まり、細やかな院内の取り決めルール等が伝わり難かった。 ○文化や習慣をその都度確認する必要があるため、確認作業に時間を要した。 ○ベトナム語で記載された資料を希望されたが、対応できなかった。 ○各医療機関でも利用できる英語や中国語などの公費負担等の書類があれば良いと感じた。 ○日本人の妻に通訳として来院してもらおうとしたが、コロナ禍での面会制限があったため苦勞した。(特別に許可して対応。)
患者受入れに関すること	<ul style="list-style-type: none"> ○帝王切開で出産するために入院したが、入院後に新型コロナの陽性が判明。コロナ対応病床が満床であったため、転院いただいた。
医療費に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ○ワーキングホリデーで来日しているアメリカ国籍の方が、コロナの治療以外に手術が必要となったが、国民健康保険に加入しておらず、説明や手続きに労力が必要となった。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○外国人患者が自身のスマホを使用したいと訴えるも、適当な充電器がなく、すぐに対応できなかった。 ○新型コロナの療養基準がグローバルスタンダードではないため、外国人患者に正しく理解してもらうことが難しかった。